

質問への回答（全日本選手権に関すること）

● 一回転すくいけんで肩幅の規定はありますが、厳密にとるとかなり厳しい規定ですが、審判内で議論したことがありますか。

【回答】⇒ 現在の種目を採用する際に、審判だけでなく、現役選手も多数参加の「審判講習会～競技会の新設・改善への対応～」を平成 26 年 11 月 30 日（日）13:00～16:00 に実施して規程の細部まで検討した結果が、現在の規程の元になっています。

<http://kendama.or.jp/審判講習会のご案内/>

一回転すくいけんで肩幅の規定がないと、技の難易度を維持できないことがわかり採用することになりました。ただし、けんを引き上げる前・けん先が玉の穴に入ったあとは肩幅から出てもよい、としたのもその際の講習会で、審判・選手ですり合わせて決めたことです。ここまで肩幅に入れるのは流石に厳しいですね。

● 一回転すくいけんはけんの回転方向だけが規定されていて、けんの動き（回転させたり、ふり出す、引き上げるなど）は問わないと考えていいですか。

【回答】⇒ 規程では基本的にまっすぐけんを引き上げる、その中でけんを向こう側に 1 回転させることを前提にしています。そして、一方の手で玉を持ち、他方の手でつり下げたけんを持って手前に引き寄せ構えて、けんを放してけんを前に振り出してからけんを引き上げ向こう側に 1 回転させてもよい、としています。

つまり、けんを引き上げはじめて、けん先に玉の穴を入れるところまで、肩幅の範囲内で動作しているのなら、まっすぐ引き上げても、けんを前後に振り出して反動をつけてから引き上げてもよいことになります。質問にある「回転させたり」は糸を軸にけんを回転させること（一回転飛行機等がそうであるように）でしょうか。その結果けんを向こう側に 1 回転させることができなければ問題ないでしょう。

● かぎぐるまの規定に玉を鉛直情報に引き上げるとありますが、前振りは許可されないと考えていいですか。

【回答】⇒ その通りです。前振りは許可しません。開発者がそのようにやっていたので、それを忠実に守りたいと思います。

● かぎぐるま 中皿から玉を跳ね上げる前に手首ひねりをしたとします。それは 2 回やっ

てもいいのでしょうか。つまり、手首ひねりは1回と決められているのは技の中ではなく、一つのひねり動作をやり直すという考え方でいいですか。

【回答】⇒質問を整理します。まずかざぐるまの流れは

- 1) 吊り下げた玉を引き上げ風車したのちに中皿にのせる。
- 2) 中皿にのった玉を投げ上げ
- 3) 風車したのちに再度中皿に玉を乗せ
- 4) 再度中皿にのった玉を投げ上げ
- 5) 風車したのちにけん先を玉の穴にさす。

ですが、質問の意図は 2) の投げ上げ前に1度手首ひねりをして、4) の投げ上げの際にも1度手首ひねりをするのは許されないのか、ということだと判断します。その場合は可です。もちろん2) の投げ上げ前に2度手首ひねりをしてしまえば不可となります。